



東北大学の佐藤です。私からは、災害に強く持続可能な地域づくりのために、学校と地域コミュニティとの関係性が非常に重要であるという観点から、ご覧のタイトルにありますように、「防災人」という人づくりに対する東北大学の関わりについてお話をさせていただきます。

まず、こちらのスライドは、東日本大震災のあと文部科学省主催のフォーラムや教育関係の雑誌で最近取り上げられている特集のテーマを整理したものです。「学校と地域との関係づくり」「学校と地域との連携・協力」といったキーワードが多いことを確認することができます。特に閣議決定されました第2期教育振興基本計画の基本的方向性の一つとして教育振興ということが目的でありながら、コミュニティの形成ということが掲げられていることは注目すべきポイントであると思います。このようなことから、東日本大震災のあと、学校は地域コミュニティとの連携を強く求めてきている状況にあることを確認することができます。次に、学校側から連携のために差し延べられた手を受け取る地域コミュニティ側の機能について、仙台市における事例を紹介させていただきます。それは仙台市地域防災リーダー(SBL)です。SBLの養成に東北大学として協力をさせていただいています。

この養成事業は2012年度からスタートして、これまでの3年間で約400名のSBLが誕生しました。その養成ポイント、コンセプトは、上に掲げております四つのポイントです。特に地域に根差した活動、それから受講者が居住されている地域に受講した成果を必ず持ち帰って還元していただくことを特徴としています。そして、SBLの受講終了者によりまず、各地域において実際の防災活動として行っていることの最も多いことは、学校での避難所運営の協議、訓練となっております。また、学校における防災教育の支援など多様な活動が少しずつではありますが、広がってきています。

最後に成果と課題をまとめさせていただきます。まず、成果です。仙台市では東日本大震災のあと、新しいタイプの地域防災リーダーとしてこれまで約400人のSBLが誕生しました。地域に根差した多様な防災活動が展開されています。そして、学校と地域コミュニティとの連携におきまして、つなぎ手の機能を担い始めていると言えます。

次に課題です。地域コミュニティにとっての課題は、学校がESDや地域に根差した教育に基づいて防災教育を展開する際に、学校を支援するための地域の教育力を発揮することだと考えます。学校にとっての課題は、地域に根差した防災教育を展開する際に地域の教育力を活用することができる「受援力」を持つことだと考えます。以上です。ご清聴ありがとうございました。